



サウンドバー

取扱説明書

音声を聞く

サウンド効果を選ぶ

BLUETOOTH機能で音楽
／音声を聞く

さまざまな機能を使う

困ったときは

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故
になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示
しています。この取扱説明書とスタートガイド（別紙）をよくお読みのうえ、製品
を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



安全のために

(→ 38 ページ～43 ページもあわせてお読みください。)

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

38～43 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。44 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においが
したら、
煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

本取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



スラグをコンセントから抜く

目次

基本の接続 → スタートガイド(別紙)
と準備 をご覧ください。

この取扱説明書の見かた	4
箱の中身を確かめる	5
各部の名称とはたらき	6

音声を聞く

テレビや他機器の音声を聞く	13
USB機器の音楽を聞く	14

サウンド効果を選ぶ

音源に合わせたサウンド効果に設定 する	16
深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウ ンドで楽しむ (ナイトモード)	17
セリフを聞きやすくする (ボイス)	17
音量幅を小さくして小さい音を聞こえ やすくする	18
サブウーファーの音量を調節する ...	18

BLUETOOTH機能で音楽/ 音声を聞く

モバイル機器の音楽を聞く	19
SongPalでモバイル機器の音楽を 聞く	22
BLUETOOTH機器を操作して本機の電 源を入れる	23

さまざまな機能を使う

ワイヤレス通信する機器を特定する (セキュアリンク)	24
2か国語放送の音声を切り換える (音声切換)	25
消費電力を抑える	26
ソファの下に設置したサブウーファー の音声を最適化する	27
ANALOG IN端子やTV IN (OPTICAL) 端子の入力レベルを小さく する	27

困ったときは

困ったときは	28
初期化する	32

その他

主な仕様	33
再生できるファイルの種類	35
入力できる音声フォーマット	35
BLUETOOTH無線技術について	36
安全のために	38
使用上のご注意	44
保証書とアフターサービス	47

この取扱説明書の見かた

- ・本書では操作の説明はリモコンを使っています。
- ・イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- ・各機能の説明では、お買い上げ時の設定に下線が付けてあります。

箱の中身を確かめ る

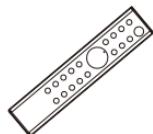
- ・バースピーカー (1)



- ・サブウーファー (1)



- ・リモコン (1)



- ・単4形マンガン乾電池 (2)



- ・光デジタル音声ケーブル (1)



- ・ACアダプター (1)



- ・電源コード (1)



- ・スピーカーカーパッド (サブウーファー用) (4)



- ・スタートガイド



- ・取扱説明書

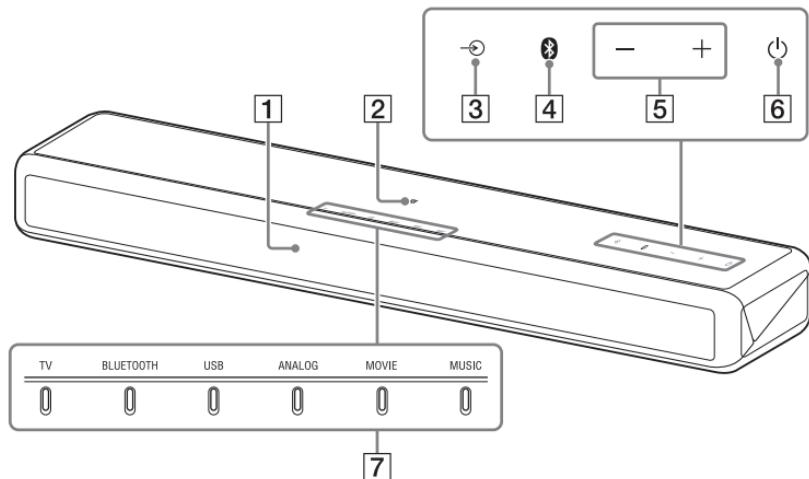


各部の名称とはたらき

本書のイラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。

本体（バースピーカー）

正面



① リモコン受光部

リモコンを本体の受光部に向けて操作してください。

② Nマーク（20ページ）

NFC機能を使うときは、NFC機能対応機器をここにタッチします。

③ -○(入力切換) ボタン (13ページ)

④ BLUETOOTH PAIRING（ペアリング）ボタン（19ページ）

⑤ +／-（音量）ボタン

⑥ Ⓜ（電源）ボタン

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

⑦ ランプ

ランプについて詳しくは「本体のランプについて」（7ページ）をご覧ください。

本体のランプについて

本体のランプの点灯や点滅は、本機の入力や入力機器の状態を表します。

ランプ	状態
TV	<ul style="list-style-type: none">点灯：テレビ入力選択中1回点滅：音量／サブウーファー音量変更時
BLUETOOTH	<ul style="list-style-type: none">点灯（青色）：BLUETOOTH接続完了（入力選択中）1回点滅（青色）：音量／サブウーファー音量変更時早く点滅（青色）：ペアリング待ち受け中点滅（青色）：BLUETOOTH接続待機中
USB	<ul style="list-style-type: none">点灯：USB入力選択中1回点滅：音量／サブウーファー音量変更時早く点滅：データ読み込み中2回ずつ点滅：サポートしていない機器がつながれている
ANALOG	<ul style="list-style-type: none">点灯：アナログ入力選択中1回点滅：音量／サブウーファー音量変更時
MOVIE	<ul style="list-style-type: none">点灯：サウンド効果設定中（16ページ）
MUSIC	<ul style="list-style-type: none">点灯：サウンド効果設定中（16ページ）

機能設定のオン／オフ切り換え時やリモコンの操作時にもランプが点滅します。

ランプ	状態
USB	<ul style="list-style-type: none">2回点滅：以下の機能をオンに設定したとき<ul style="list-style-type: none">– ドルビー DRC（18ページ）– BLUETOOTHスタンバイ（23ページ）– 自動電源オフ（26ページ）– ソファモード（27ページ）– 入力レベル抑制（27ページ）
ANALOG	<ul style="list-style-type: none">2回点滅：以下の機能をオフに設定したとき<ul style="list-style-type: none">– ドルビー DRC（18ページ）– BLUETOOTHスタンバイ（23ページ）– 自動電源オフ（26ページ）– ソファモード（27ページ）– 入力レベル抑制（27ページ）

ランプ 状態

MOVIE MUSIC
0 0

- 2回点滅：音声切換（25ページ）を主音声に設定、または以下の機能をオンに設定したとき
 - ナイトモード（17ページ）
 - ボイスモード（17ページ）
 - 2秒間点灯した後消灯：サウンド効果をCLEAR AUDIO+に設定中
 - 交互に点滅：セキュアリンク機能を使ってサブウーファーと本機の接続待機中（24ページ）
-

MOVIE
0

- 2回点滅：音声切換（25ページ）を副音声に設定、または以下の機能をオフに設定したとき
 - ナイトモード（17ページ）
 - ボイスモード（17ページ）
-

MUSIC
0

- 2回点滅：音声切換を主音声+副音声に設定したとき（25ページ）
-

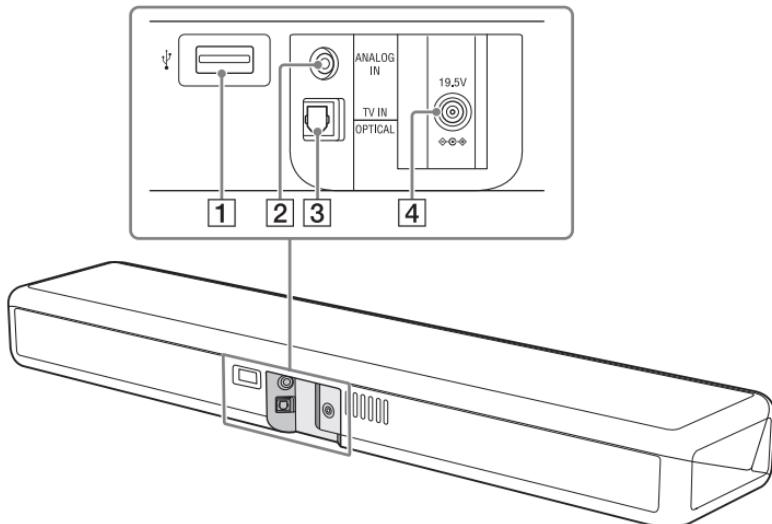
TV USB ANALOG
0 0 0

- 3回点滅：音量／サブウーファー音量が最大または最小になったとき
 - クリ返し点滅：消音されているとき
-

TV BLUETOOTH USB ANALOG MOVIE MUSIC
0 0 0 0 0 0

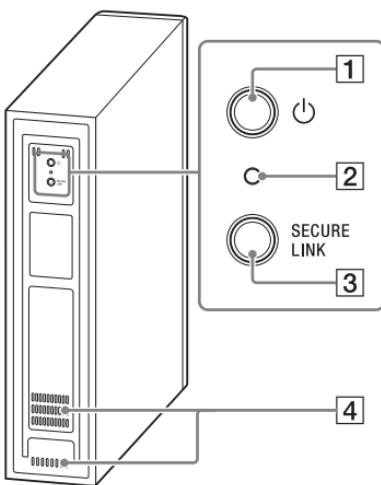
- 10秒間点滅した後本機の電源が切れる：プロテクト機能作動中（31ページ）
 - ゆっくり点滅：自動電源オフ機能によって本機がスタンバイモードになっているとき
-

背面



- ① ψ (USB) 端子 (14ページ)
- ② ANALOG IN (アナログ入力)
端子
- ③ TV IN (OPTICAL) (テレビ入力
(光デジタル)) 端子
- ④ DC IN (DC入力) 端子

サブウーファー



① ⏹ (電源) ボタン

サブウーファーの電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

② 電源ランプ

- 赤色で点灯：スタンバイ状態
- 緑色で点灯：本機と接続中
- オレンジ色で点灯：セキュアリンク機能を使って本機と接続中
- 緑色で点滅：本機と接続待機中
- オレンジ色で点滅：セキュアリンク機能を使って本機と接続待機中
- 赤色で点滅：プロテクト機能作動中 (29ページ)

③ SECURE LINK (セキュアリンク) ボタン (24ページ)

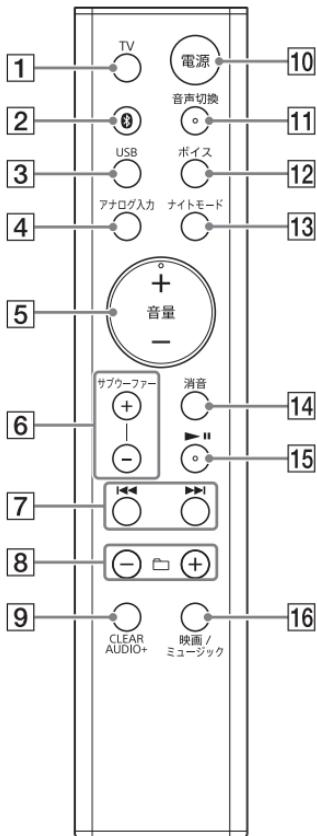
④ 通風孔

安全のためふさがないようにしてください。

リモコン

ボタンを押す長さで働きが異なるボタンがあります。下記のマークはボタンを押す長さを表します。

- : 押します。
- : 5秒間押したままにします。



① TV (テレビ) ボタン (13ページ)

TV IN (OPTICAL)端子につないだテレビの入力を選びます。

② BLUETOOTHボタン (20ページ)

本機のBLUETOOTH機能を有効にします。

③ USBボタン (14ページ)

USB端子につないだUSB機器の入力を選びます。

④ アナログ入力ボタン

●: ANALOG IN端子につないだアナログ機器の入力を選びます。(13ページ)

■: 入力レベル抑制機能のオン/オフをします。(27ページ)

⑤ 音量+*/-ボタン

音量を調節します。

⑥ サブウーファー+/-ボタン (18ページ)

サブウーファーの音量を調節します。

⑦ ◀◀/▶▶ (前へ/次へ) ボタン (14, 19ページ)

前または次のファイルの先頭に進みます。

⑧ - □ + (フォルダー選択) ボタン (14ページ)

USB再生時に前または次のフォルダーに切り替えます。

⑨ CLEAR AUDIO+ボタン

- : サウンド効果のCLEAR AUDIO+を選びます。(16ページ)
- : セキュアリンク機能を有効にします。(24ページ)

⑩ 電源ボタン

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

⑪ 音声切換ボタン*

- : 2か国語放送の音声を切り替えます。(25ページ)
- : ドルビー DRC機能のオン／オフをします。(18ページ)

⑫ ボイスボタン

- : ボイスモードのオン／オフをします。(17ページ)
- : ソファモードのオン／オフをします。(27ページ)

⑬ ナイトモードボタン

- : ナイトモードのオン／オフをします。(17ページ)
- : BLUETOOTHスタンバイモードのオン／オフをします。(23ページ)

⑭ 消音ボタン

音を一時的に消します。

⑮ ▶■ (再生／一時停止)

ボタン* (14、19ページ)
一時停止または再生を再開します。

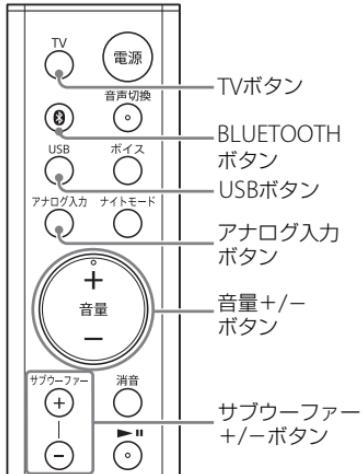
⑯ 映画/ミュージックボタン

- : サウンド効果の映画またはミュージックを選びます。(16ページ)
- : 自動電源オフ機能のオン／オフをします。(26ページ)

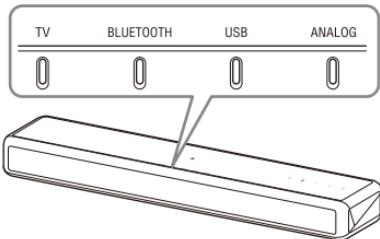
* 音声切換ボタン、▶■ (再生／一時停止) ボタン、音量+ボタンには、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

音声を聞く

テレビや他機器の音声を聞く



1 TVボタン、アナログ入力ボタン、BLUETOOTHボタンまたはUSBボタンを押す。
選んだ入力のランプが点灯します。



TV

TV IN (OPTICAL)端子につないだテレビ

アナログ入力

ANALOG IN端子につないだテレビ

BLUETOOTH

A2DPに対応している

BLUETOOTH機器

詳しくは「BLUETOOTH機能で音楽／音声を聞く」(19ページ)をご覧ください。

USB

USB端子につないだUSB機器

詳しくは「USB機器の音楽を聞く」(14ページ)をご覧ください。

2 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します (18ページ)。

ちょっと一言

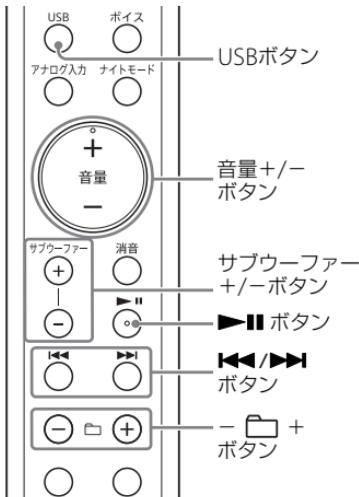
本体の-②ボタンを押すと、入力が以下のように切り換わります。

TV → BLUETOOTH → USB → アナログ入力

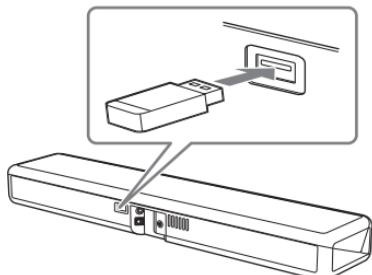
USB機器の音楽を聞く

USB機器の音楽ファイルを再生できます。

再生可能なファイルについては「再生できるファイルの種類」(35ページ)をご覧ください。



1 \downarrow (USB) 端子にUSB機器を差し込む。



2 USBボタンを押す。

3 ▶▷(再生／一時停止)ボタンを押す。

4 - □ + ボタンを押して再生したいファイルが保存されているフォルダーを選ぶ。

◀◀/▶▶ボタンを押すと、前または次のファイルの先頭に進めます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します(18ページ)。

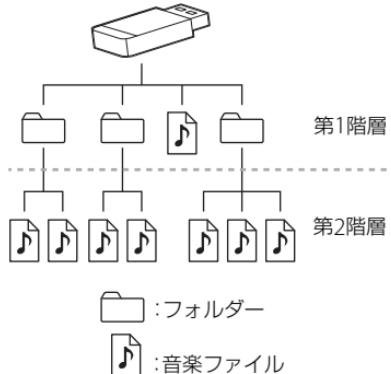
ご注意

操作中はUSB機器を取りはずさないでください。USB機器を本機につないだり取りはずしたりするときは、データの損失やUSB機器の故障を避けるため、必ず本機の電源を切ってください。

音楽の再生順序

USB機器にフォルダーがある場合は、第1階層にある音楽ファイルから順に再生します。

音楽ファイルの再生順はUSB機器のファイルシステムにより異なります。



ファイルシステムと音楽ファイルの再生順

FAT32 記録された日時順
(古い→新しい)

NTFS 名前順

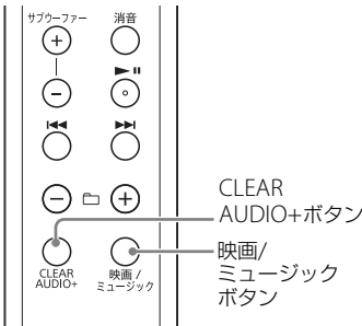
ちょっと一言

SongPalを使うと、再生のしかたを選べます(22ページ)。

サウンド効果を選ぶ

音源に合わせたサウンド効果に設定する

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンド効果を選びます。



CLEAR AUDIO+ボタンまたは映画/ミュージックボタンを押してサウンド効果を選ぶ。

映画またはミュージックを選ぶ場合は、映画/ミュージックボタンを繰り返し押します。

CLEAR AUDIO+

おすすめのサウンド効果です。再生するコンテンツに合った音設定に自動的に切り換わります。

MOVIEランプとMUSICランプが2秒間点灯した後消灯します。

映画

サラウンド効果をともない、音の密度、豊かな広がりを再現し、映画をみるとときに最適です。

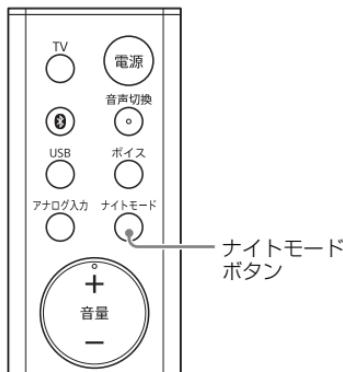
MOVIEランプが点灯します。

ミュージック

音楽を聞くときに最適です。
MUSICランプが点灯します。

深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ(ナイトモード)

ナイトモードをオンにすると、音量の幅を圧縮して小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。



ナイトモードボタンを押してオン／オフに設定する。

ナイトモード：オン

MOVIEランプとMUSICランプが2回点滅します。

ナイトモード：オフ

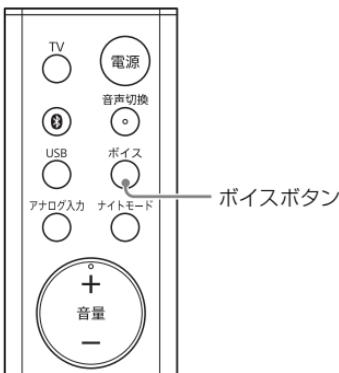
MOVIEランプが2回点滅します。

ご注意

本機の電源を切ると、ナイトモードは自動的にオフになります。

セリフを聞きやすくする(ボイス)

ボイスモードをオンにすると、セリフをクリアにして聞こえやすくなります。



ボイスボタンを押してオン／オフに設定する。

ボイスモード：オン

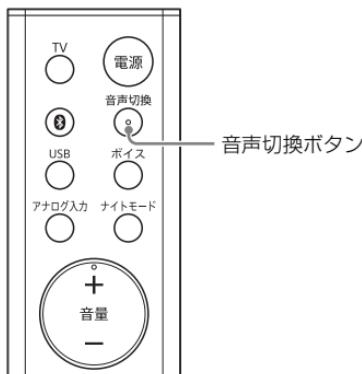
MOVIEランプとMUSICランプが2回点滅します。

ボイスモード：オフ

MOVIEランプが2回点滅します。

音量幅を小さくして小さい音を聞こえやすくする

この機能は、本機のTV IN (OPTICAL) 端子につないだ機器のドルビーデジタル信号を再生する場合のみ有効です。ドルビー DRC (Dynamic Range Control) をオンにすると、音声信号のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量の幅）を圧縮して、小さな音を聞きとりやすくなります。



音声切換ボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

ドルビー DRC : オン

USBランプとANALOGランプが2回点滅します。

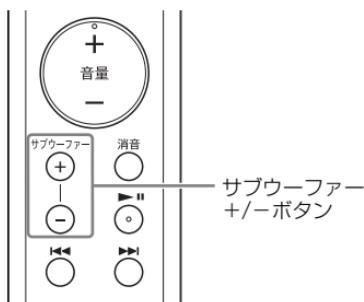
ドルビー DRC : オフ

USBランプが2回点滅します。

サブウーファーの音量を調節する

サブウーファーは低音を再生するためのスピーカーです。

サブウーファーの音量を調節することによって、低音を調節できます。



サブウーファー+／-ボタンを押してサブウーファーの音量を調整する。

ご注意

テレビ放送などの低音の少ない入力では、サブウーファーの音が聞こえにくいことがあります。

BLUETOOTH機能で音楽／音声を聞く

モバイル機器の音楽を聞く

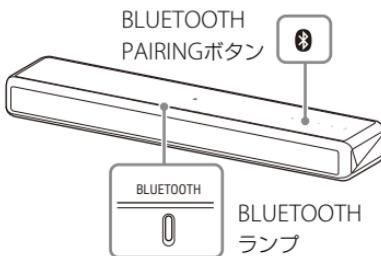
スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器とBLUETOOTH機能でつながり、モバイル機器に保存しているさまざまな音楽をワイヤレスで聞くことができます。

モバイル機器とBLUETOOTH機能でつながる場合は、テレビの電源を入れることなく、本機のリモコンだけでつなぐことができます。

モバイル機器とペアリング（機器登録）して音楽を聞く

1 本体のBLUETOOTH PAIRINGボタンを押す。

本機がペアリングモードになり、BLUETOOTHランプが速く点滅します。



2 モバイル機器側のBLUETOOTH機能をオンにし、機種検索をして、「HT-MT300/301」を選ぶ。

パスコードを要求された場合は、「0000」を入力します。

3 本体のBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（18ページ）。
- ▶➡ボタンや◀◀/▶▶ボタンを使って再生操作ができます。

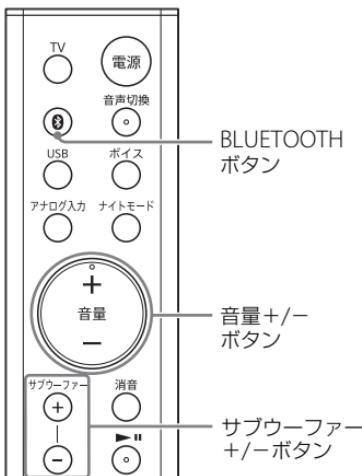
ご注意

- BLUETOOTH機器は10台までペアリングすることができます。10台分をペアリングしたあと新たな機器をペアリングすると、10台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器のペアリング情報が、新たな機器の情報で上書きされます。
- 2台目以降もモバイル機器ごとにペアリングを行ってください。

ちょっと一言

BLUETOOTH機器の接続状態は、本体のBLUETOOTHランプで確認できます（7ページ）。

ペアリング（機器登録）済みのモバイル機器の音楽を聞く



1 モバイル機器のBLUETOOTH機能をオンにする。

2 BLUETOOTHボタンを押す。

最後につないだBLUETOOTH機器と自動的につなぎます。

3 本体のBLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（18ページ）。

ワンタッチ（NFC）でモバイル機器につないで聞く

NFC機能対応のスマートフォンやタブレットなどのモバイル機器を本体のNマークにタッチするだけで、本機の電源が自動的に入り、BLUETOOTH機能のペアリング（機器登録）や接続が行われます。

対応する機器

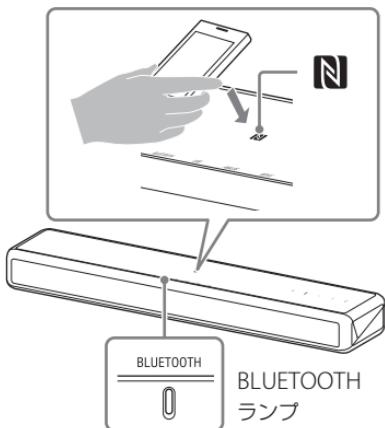
NFC機能またはおサイフケータイ機能を搭載したスマートフォン、タブレットやミュージックプレーヤー（対応OS：Android™ 2.3.3以降、Android 3.xを除く）

1 モバイル機器のNFC機能をオンにする。

2 モバイル機器のNマーク、またはフェリカマークを本体のNマークにタッチする。

モバイル機器が振動してモバイル機器にメッセージが表示されるまでタッチし続けてください。

モバイル機器の画面の指示にしたがって操作すると、本機とモバイル機器とのペアリングが完了します。



3 BLUETOOTHランプが青色に点灯していることを確認する。

本機とモバイル機器との接続が完了しました。

4 モバイル機器の音楽再生アプリでコンテンツを再生する。

本機から音声が出力されます。

5 音量を調節する。

- リモコンの音量+/-ボタンで音量を調節します。
- リモコンのサブウーファー+/-ボタンでサブウーファーの音量を調節します（18ページ）。

ワンタッチで再生を止める

本体のNマークにモバイル機器をもう一度タッチします。

ご注意

- モバイル機器によっては、あらかじめ以下のことを行う必要があります。
 - NFC機能をオンにする。
 - Google Playから「NFC簡単接続」アプリをインストールし、アプリを起動する。詳しくはお使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- 磁力に反応して待機モードに入るスマートフォンやタブレットの場合は、ワンタッチ接続（NFC）できないことがあります。ワンタッチ接続（NFC）できないときは、BLUETOOTH機能でつないでください（19ページ）。

SongPalでモバイル機器の音楽を聞く

SongPal*を使ってできること

SongPalとは、スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器から、SongPal対応のソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

* SongPalはSony | Music Centerにリニューアルしました。Sony | Music Centerは本機でお使いになれます。

SongPalについて詳しくは、下記のURLをご覧ください。
<http://info.songpal.sony.net/help/>

お使いのモバイル機器にSongPalをインストールすると、以下のことができます。

本機のサウンド設定

お好みの音質やソニーおすすめの音質「ClearAudio+」を簡単に設定できます。

USB機器の音楽を楽しむ

本機のUSB端子につないだUSB機器の音楽を再生できます。シャッフル再生やリピート再生などの設定はSongPalからのみ行えます。

ご注意

機器によってSongPalができる操作は異なります。アプリの仕様および画面デザインは予告なく変更する場合があります。

SongPalを使う

1 モバイル機器に無料アプリSongPalをインストールする。

お使いのモバイル機器で、Google Play (Playストア) またはApp StoreでSongPalを検索して、インストールしてください。

2 本機とモバイル機器をBLUETOOTH機能(19ページ)またはワンタッチ接続(NFC)でつなぐ(20ページ)。

3 SongPalを起動する。

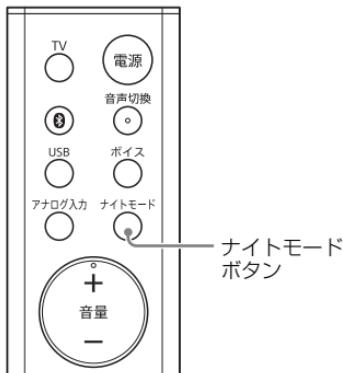
4 SongPalの画面の指示にしたがって操作する。

ご注意

SongPalは最新版をご利用ください。

BLUETOOTH機器を操作して本機の電源を入れる

BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、本機がスタンバイ状態のときBLUETOOTH機器の操作により本機の電源を入れて音声を聞くことができます。



ナイトモードボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

BLUETOOTHスタンバイモード：オン

USBランプとANALOGランプが2回点滅します。

BLUETOOTHスタンバイモード：オフ

USBランプが2回点滅します。

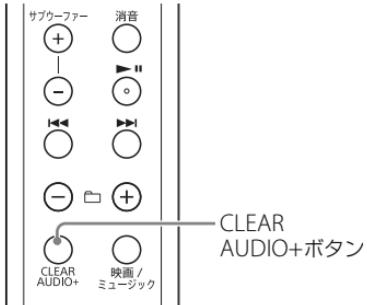
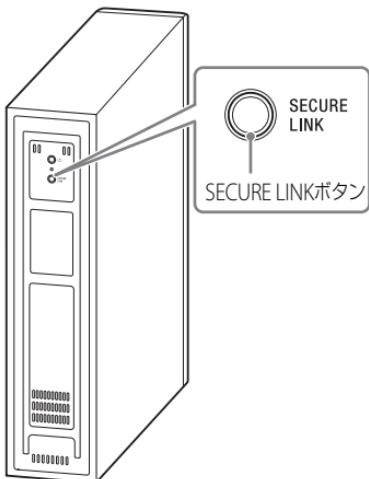
ご注意

BLUETOOTHスタンバイモードをオンにすると、スタンバイ時の消費電力が大きくなります。

さまざまな機能を使う

ワイヤレス通信する機器を特定する (セキュアリンク)

本体とサブウーファーをワイヤレスでつなぐときに、セキュアリンク機能を使ってワイヤレス通信する機器を特定することができます。自宅や近隣で複数のワイヤレスサウンド機器を使用しているときに起こる混線を防ぐことができます。



1 サブウーファー背面の SECURE LINKボタンを押 す。

サブウーファーの電源ランプがオレンジ色に点滅します。

2 CLEAR AUDIO+ボタンを 5秒間長押しする。

USBランプとANALOGランプが2回点滅し、MOVIEランプとMUSICランプが交互に点滅します。

本体とサブウーファーのリンクが確立すると、ランプの点滅が止まります。

リンクに失敗すると、MOVIEランプとMUSICランプが5秒間点灯します。その場合は操作を始めからやり直してください。

2か国語放送の音 声を切り換える (音声切換)

2か国語放送は、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されているAAC音声方式で放送されています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタル音声ケーブル（付属）でつなぎます。また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力」の設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

音声切換ボタンをくり返し押す。

音声が以下のように切り換わります。
主音声 → 副音声 → 主音声 + 副音声

主音声

主音声を再生します。

MOVIEランプとMUSICランプが2回点滅します。

副音声

副音声を再生します。

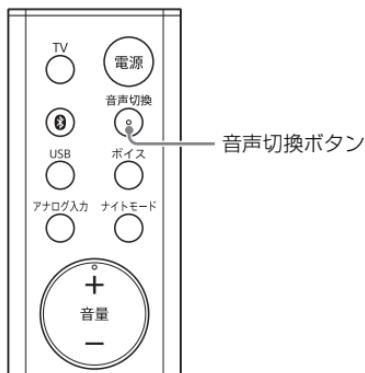
MOVIEランプが2回点滅します。

主音声+副音声

主音声と副音声をミックスして再生します。

MUSICランプが2回点滅します。

さまざまなお機能を使う



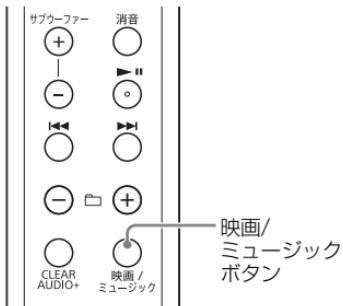
消費電力を抑える

スタンバイ時の消費電力を抑える

消費電力を抑えて本機を使うには、下記の設定を変更します。

使用状況を検知して本機の電源を切る

自動電源オフ機能をオンにすると、本機を何も操作しないまま約20分が経過すると、自動的にスタンバイ状態になります。



映画/ミュージックボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

自動電源オフ機能：オン

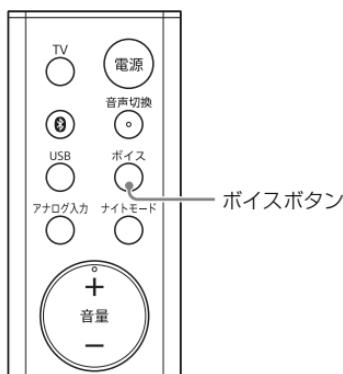
USBランプとANALOGランプが2回点滅します。

自動電源オフ機能：オフ

USBランプが2回点滅します。

ソファの下に設置したサブwooferの音声を最適化する

ソファモードをオンにすると、ソファの下に設置したサブwooferの音声を最適に設定することができます。



ボイスボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

ソファモード：オン

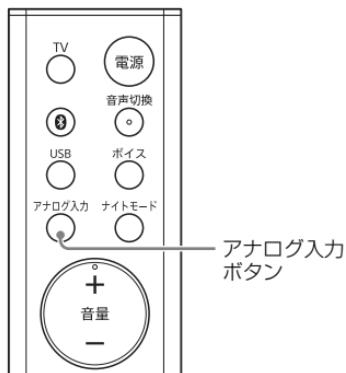
USBランプとANALOGランプが2回点滅します。

ソファモード：オフ

USBランプが2回点滅します。

ANALOG IN端子やTV IN (OPTICAL)端子の入力レベルを小さくする

ANALOG IN端子やTV IN (OPTICAL)端子につないでいる機器の音声が歪むことがあります。その場合、入力レベル抑制機能をオンにすると、音声入力レベルを小さくして歪みを防ぐことができます。



アナログ入力ボタンを5秒間長押ししてオン／オフに設定する。

入力レベル抑制機能：オン

USBランプとANALOGランプが2回点滅します。

入力レベル抑制機能：オフ

USBランプが2回点滅します。

困ったときは

困ったときは

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

- 電源コードがしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れてください。

本機の電源が勝手に切れてしまう

- 自動電源オフ機能が働いています。自動電源オフ機能をオフにしてください（26ページ）。

音声

本機からテレビの音声が出ない

- 光デジタル端子から出力されている音声が出ない場合は、以下を試してください。
— テレビにつないでいる他機器の音声が出ない場合は、他機器を本機のTV IN (OPTICAL)端子に直接つなぐ。

一本機とテレビをアナログ音声ケーブル（別売）でつないで、入力を「ANALOG」にする。

- テレビをつないでいる端子の入力ボタンを押す（13ページ）。
- テレビの音量を上げる、または消音状態を解除してください。
- テレビから出力されている音声を確認してください。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機はドルビーデジタル、PCM音声、AACフォーマットに対応しています（35ページ）。対応していないフォーマットの音声を再生する場合は、テレビ（ブラビア）のデジタル音声出力を「PCM」に設定してください。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機とテレビの両方から音が出る

- 本機またはテレビを消音してください。

本機につないだ機器の音声が出ない、または音が小さい

- リモコンの音量+ボタンを押して、音量を上げてください（11ページ）。
- リモコンの消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除してください（11ページ）。
- 正しい入力を選んでいるか確認してください。また、リモコンの入力ボタン（TVボタン、ANALOGボタンまたはUSBボタン）を押して入力を選んでください（13ページ）。
- 本機と他機器をつないでいるケーブルの端子が、奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

- アップサンプリング機能に対応している機器をつないだ場合は、アップサンプリング機能をオフにしてください。

サラウンド効果が得られない

- サウンド効果の設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感が得られないことがあります。また、番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- マルチチャンネルの音声を再生するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

サブウーファー

サブウーファーの音声が出ない、または小さい

- リモコンのサブウーファー+ボタンを押して、サブウーファーの音量を上げてください（18ページ）。
- サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯していることを確認してください。
- サブウーファーの電源ランプが消灯している場合は、以下を試してください。
— サブウーファーの電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
— サブウーファーの△（電源）ボタンを押して電源を入れる。
- サブウーファーの電源ランプが緑色にゆっくり点滅、または、赤色に点灯し

ている場合は、以下を試してください。

— サブウーファーの電源ランプが緑色に点灯するようにサブウーファーの位置を本体の近くに動かす。

— 「ワイヤレス通信する機器を特定する（セキュアリンク）」（24ページ）の手順を行う。

- サブウーファーの電源ランプが赤色に点滅しているときは、サブウーファーのプロテクト機能作動中です。その場合は、サブウーファーの△（電源）ボタンを押して電源を切り、サブウーファーの通風孔がふさがっていないか確認してください。
- サブウーファーは、低音を再生するためのスピーカーです。低音の少ない入力ソース（テレビ放送など）では、サブウーファーの音が聞こえにくことがあります。
- ナイトモードをオフにしてください。
詳しくは「深夜の小音量時でも明瞭感のあるサウンドで楽しむ（ナイトモード）」（17ページ）をご覧ください。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使ってください。
- 本体とサブウーファーとの間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 本体とサブウーファーをできるだけ近づけてください。

- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- テレビ、ブルーレイディスクレコーダーなどの無線LANを有線LANに切り換えてください。

USB機器の接続

USB機器が認識されない

- 以下を試してください。
 - ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器が \downarrow (USB) 端子にしっかりとつながれているか確認してください(14ページ)。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているか確認してください。
- USB機器がハブを経由して本機とつながれている場合は、USB機器をハブからはずして、本機に直接つないでください。
- アナログ音声ケーブル(別売)を使ってUSB機器をANALOG IN端子につないでください。

モバイル機器の接続

BLUETOOTH接続ができない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください(6ページ)。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の電源が入っているか、BLUETOOTH機能が有効になっているか確認してください。

- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 本機とBLUETOOTH機器を再度、ペアリングしてください。BLUETOOTH機器側で、本機の登録を解除する必要がある場合があります。

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH機器をなるべく近づけてからペアリングを行ってください。
- 無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 他のBLUETOOTH機器が近くにあるときはペアリングできない場合があります。その場合は、そのBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

つないだBLUETOOTH機器の音が本機から出ない

- BLUETOOTHランプが点灯していることを確認してください(6ページ)。
- 本機とBLUETOOTH機器をできるだけ近づけてください。
- 無線LANや他のBLUETOOTH機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器を本機から離して使ってください。
- 本機とBLUETOOTH機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 接続相手のBLUETOOTH機器の位置を変えてください。

- 無線LANルーターやパソコンなどの無線LAN周波数を5 GHz帯に切り換えてください。
- BLUETOOTH機器側の音量を上げてください。

映像より音が遅れる

- 映画を見ているときは、音が映像より遅れて聞こえる場合があります。

リモコン

本機のリモコンが機能しない

- 本体のリモコン受光部に向けて操作してください（6ページ）。
- リモコンと本機との間に障害物を置かないでください。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換えてください。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認してください（11ページ）。

テレビのリモコンが機能しない

- テレビのリモコン受光部が隠れないように本体を設置してください。

その他

本体のすべてのランプが10秒間点滅して本機の電源が切れる

- プロテクト機能が作動しています。電源コードを抜いて以下を確認してください。
 - 本体の通風孔がふさがっていないいか確認し、しばらくしてから本機の電源を入れる。
 - USB機器を本体につないでいる場合は、USB機器を外してから

本機の電源を入れる。

正常に戻った場合は、本機の最大出力電流500 mAを超えている、またはUSB機器の異常が考えられます。

テレビの各種センサーが正常に動作しない

- 本体の置きかたによっては、本体がテレビの各種センサー（明るさセンサーなど）や、リモコン受光部、赤外線方式3Dグラス対応の3Dテレビの「3Dグラス用発信部（赤外線通信）」、無線通信をさえぎる可能性があります。その場合は、各種センサーなどが正常に動作する位置まで本体をテレビから離してください。各種センサーやリモコン受光部の位置については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

本機が正常に動作しない

- 本機がデモモードになっている可能性があります。デモモードを解除するには、本機を初期化します。本体の（電源）ボタンと-ボタンを5秒以上押してください（32ページ）。

初期化する

「困ったときは」で症状が改善されない場合は、本機を初期化してください。

1 本体の \odot （電源）ボタンと一緒にボタンを5秒以上押す。

本体のすべてのランプが3回点滅し、本機が初期化されます。

2 電源コードを抜く。

3 電源コードをつないで、本 \odot （電源）ボタンを押して電源を入れる。

4 本体とサブウーファーをワイヤレス接続する（24ページ）。

ちょっと一言

各機能の説明では、お買い上げ時の設定に下線がつけてあります。

その他

主な仕様

バースピーカー (SA-MT300)

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）
フロントL／フロントRスピーカーブ
ロック：25 W × 2 (各チャンネル4 Ω、
1 kHz)

入力

デジタル入力 (TV)
アナログ入力
USB

* JEITA（電子情報技術産業協会）規定による測定値です。

USB部

USB端子：
Aタイプ (USBメモリー)

BLUETOOTH部

通信方式 BLUETOOTH標準規格 Ver.4.2

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離約25 m¹⁾

登録台数

10台まで

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.4 GHz ~ 2.4835 GHz)

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP1.2 (Advanced Audio
Distribution Profile)

AVRCP1.6 (Audio Video Remote
Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域 (A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz (32 kHz、
44.1 kHz、48 kHzサンプリング時)

- 1) 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わることがあります。
- 2) BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。
- 3) 音声圧縮変換方式のことです。
- 4) Subband Codec の略です。

フロントL／フロントRスピーカーブ

ロック部

形式

フルレンジスピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

40 mm × 100 mm コーン型

一般

電源

DC 19.5 V (付属のACアダプターをつ
ないでAC 100 V ~ 240 V、50/60 Hz電
源にて使用)

消費電力 (ACアダプター使用時)

25 W

スタンバイ状態のとき：0.5 W以下
BLUETOOTHスタンバイモードがオン
のとき：1.8 W以下

BLUETOOTHスタンバイモードがオフ
のとき：0.5 W以下

最大外形寸法* (約) (幅／高さ／奥行き)
500 mm × 54 mm × 103 mm

* 突起部除く

質量 (約)

1.4 kg

対応iPhone/iPod

以下のモデルに対応しています。本機につ
ないで使用する前にiPhone/iPodを最新の
ソフトウェアにアップデートしてください。

iPhone 7/iPhone 7 Plus/iPhone SE/
iPhone 6s/iPhone 6s Plus/iPhone 6/
iPhone 6 Plus/iPhone 5s/iPhone 5c/
iPhone 5
iPod touch (6th generation) /iPod
touch (5th generation)

サブウーファー (SA-WMT300)

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）

50 W、4 Ω、100 Hz

* JEITA（電子情報技術産業協会）による
測定値です。

形式

サブウーファーシステム

バスレフ型

使用スピーカー

120 mm コーン型

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：20 W

スタンバイ状態のとき：0.5 W以下

最大外形寸法（約）（幅／高さ／奥行き）

95 mm × 383 mm × 365 mm（突起
部除く）

質量（約）

4.9 kg

ワイヤレストランスマッター ／レシーバー部

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.4000 GHz -

2.4835 GHz)

変調方式

FHSS

仕様および外観は、改良のため、予告なく
変更することがあります。ご了承ください。

再生できるファイルの種類

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	.mp3
AAC	.mp4、.m4a、.3gp
WMA9 Standard	.wma
LPCM	.wav

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、または録音状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- デジタル著作権管理（DRM）などで保護されたファイルは再生できません。
- 本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - 128文字までのフォルダーパス（ルートフォルダーから目的のフォルダーまでの経路）内にあるフォルダー
 - ルートフォルダーを含め、200個までのフォルダー
 - 1つのフォルダー内の200個までのファイル／フォルダー
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマスストレージクラス（MSC）機器（フラッシュメモリーやハードディスクなど）を認識します。

入力できる音声フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

- Dolby Digital
- Linear PCM 2ch
- AAC

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。BLUETOOTH標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBLUETOOTHバージョンとプロファイルに対応しています。

対応BLUETOOTHバージョン：
－BLUETOOTH標準規格Ver. 4.2

対応BLUETOOTHプロファイル：

- －A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)：高音質な音楽コンテンツを送受信する。
- －AVRCP 1.6 (Audio Video Remote Control Profile)：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約25m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN(IEEE802.11b/g/n)は同一周波数帯(2.4GHz)を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度

の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIGの定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準

規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。

- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないでください。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機やACアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体、ACアダプターや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止



警告



火災



感電

下記の注意事項を守らないと火災・
感電により死亡や大けがの原因
となります。

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。



禁止

- ・設置時、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
 - ・電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
 - ・重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
 - ・熱器具に近づけない。加熱しない。
 - ・移動させるときは、電源コードを抜く。
 - ・電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。
- 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えることがあります。

ぬれた手でACアダプターや電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞くかない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



スラグをコンセントから抜く

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下しつけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



禁止



下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

設置上のご注意

本機の角だけがをしないようにお気をつけください。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

バースピーカーについて

機銘板は底面に貼ってあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

△ 危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間が経つてから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



接触禁止



指示

△ 警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

→ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 警告

+と-の向きを正しく入れる

+と-を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

→ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

使用上のご注意

- 次のような場所には置かないでください。
 - 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
 - チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をそれらの機器から離して設置してください。
 - 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。
- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。
- 使用中に本体の温度が上昇することがあります、故障ではありません。
- 本機のスピーカーは、防磁型ではありません。本機の上や近くに磁気を利用したカード類は置かないでください。
- 本機の周りにテレビ以外の金属物を置かないでください。無線機能に影響が出る場合があります。
- ソファの下にサブウーファーを置いたとき、サブウーファーの振動で気分が悪くなることがあります。不快な症状が出たときは、サブウーファーの音量を調整するか、サブウーファーをソファの下から取り出して他の場所に設置してください。

付属の電源コードセットについて

付属の電源コードセットは本機専用です。
他の電気機器では使用できません。

ACアダプターについて

- この製品には付属のACアダプター（極性統一型プラグ・JEITA規格）をご使用ください。付属以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。
- 付属のACアダプターは本機専用です。他の機器ではご使用になれません。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



お手入れについて

キャビネットは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。
研磨パッド、クレンザー、アルコールやベンジンなどの溶剤は使わないでください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4FH8

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式と
してFH-SS変調方
式を採用し、与干
渉距離は80 mで
す。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

商標とライセンスについて

本機はドルビーデジタル*およびMPEG-2 AAC (LC) デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Audio、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

BLUETOOTH®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC. の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。

NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。

AndroidとGoogle PlayはGoogle LLCの商標です。

Apple、iPhone、iPod、iPod touchは米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。

App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

「Made for Apple」バッジは、アクセサリが本バッジに記載されたアップル製品専用に接続するように設計され、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

“プラビア”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“ClearAudio+”はソニー株式会社の登録商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

Windows Mediaは米国および／またはその他の国におけるMicrosoft Corporation の登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェック

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

型名：HT-MT300

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル

..... **0120-333-020**

携帯電話・PHS・一部のIP電話

..... **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル

..... **0120-222-330**

携帯電話・PHS・一部のIP電話

..... **050-3754-9599**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談は
こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に

「3 0 6」+「#」

を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Made for

iPhone | iPod



* 4 6 8 8 0 1 0 0 2 * (1)